

## 基調講演

### 「根を育てる生活のなかで表現について考える」

伊集院理子氏（十文字女子大附属幼稚園 園長）



#### プロフィール

お茶の水女子大学家政学研究科児童学専攻修士課程修了（家政学修士）  
お茶の水女子大学附属幼稚園教諭、副園長、十文字学園女子大学人間生活学部幼児教育学科教授を経て、現在、十文字女子大附属幼稚園園長。  
“子どもたちと一緒に遊ぶ”をモットーに、日々子どもたちとの生活を楽しんでいる。

#### 「表現」に関連する主な著作

- 「心のままに動くからだを求めて」『女子体育(踊るからだ)』第46巻 第6号  
社団法人 日本女子体育連盟 2004年
- 「A男の夢中になった遊びをたどってみて」『お茶大子ども実践研究(表現の生まれるところ)』  
お茶大 ECCELL プレス 2013年
- 「保育者としての歩みを振り返る」『幼児の教育』第120巻第4号  
フレーベル館 2021年
- 「信頼関係から生み出されることば」『新訂 事例で学ぶ保育内容<領域>言葉』  
萌文書林 2021年
- 「幼小連携の潮流を振りかえって今考えること」『季刊保育問題研究』319号  
新読書社 2023年

#### 【講演要旨】

幼児期の教育は、子どもたちがこの先成長していく上での根の力を培う重要な役割を担っています。日本の幼児教育の父倉橋惣三は、昭和6年刊行の『就学前の教育』で「就学前教育は根の教育である。根の力は、自己発展力である。…就学前の教育は、小さき成果を意とすることなく、どこまでも、根を根として培養する教育である」と述べています。

昨今注目されている「非認知能力」「社会情動的スキル」と倉橋の「根の力」は重なっています。知的教育に重点を置いてきた欧米とは違い、日本の幼児教育では、倉橋の考えを源にして子ども達の中にこうした力を育てようとする流れが重ねられてきています。

私は、「根を根として育てる」「根の力を育てる」ことを座右の銘にして長年幼稚園の現場で教育実践を重ねてきました。その中で、見て取ることができない子どもの「心」や「根の力」により近づくためには、子ども達の「(こころと一体化した)からだ」に着目することが大事だということに辿り着きました。「からだ」に着目して子ども達の生活・遊びを観ていくと、造形表現も身体表現も、そして音楽表現も「からだの表現」として捉えていくことができます。造形でも身体でも音楽でも「からだの表現」が導き出されるためには、まずもって「こころと一体化したからだ」の安定が基盤になっていきます。その基盤から子ども達の「からだの表現」がどのように立ち現れていくのか、実践事例に基づきお話をさせていただきます。その中で「表現」についての思いも語らせていただきます。